



ナデ6110形式6141号電車が 国の重要文化財に指定されました

鉄道博物館 車両ステーション内で収蔵・展示中の「ナデ6110形式6141号電車」が平成29年9月15日付の官報(文部科学省告示第百十七号)において、国の重要文化財に指定されました。

日本の電車の近代化の歴史を後世に伝える貴重な車両として、今後とも保存・展示してまいりますので、みなさまのご理解とご協力をお願い申し上げます。



車両外観



車内

ナデ6141号電車 概要

■製造年／1914(大正3)年 ■製造所／鉄道院新橋工場 ■全長／約16m ■定員／92名

ボギー電車(車体前後に首ふりが可能な台車を装着した車両)としては現存最古の車両。総括制御方式の採用により運転士1人で2両以上連結しての運転を可能としたほか、片側3扉を採用したことで都市部の通勤・通学輸送の増大に対応するなど、今日の通勤形電車の原型ともいえる装備をもつ。

参考：鉄道博物館収蔵の国指定重要文化財

■1号機関車(150形式)／1997(平成9)年指定／車両ステーションで展示中
■鉄道古文書／2003(平成15)年指定／非公開
■1号御料車(初代)／2003(平成15)年指定／車両ステーションで展示中
■ナデ6110形式電車／2017(平成29)年指定／車両ステーションで展示中